

4 各部門の活動内容

■呼吸器内科

○呼吸器内科の現状

07年度の入院患者内訳は、肺炎188名、睡眠時無呼吸症候群検査入院136名、肺癌79名、気管支喘息164名、COPD186名、間質性肺炎39名、肺結核後遺症51名、器質性肺炎39名、膿胸（胸膜炎）25名等です。06年度に比較し、COPD、肺結核後遺症が増加しており、いずれも慢性呼吸不全症例の増加と関連しています。患者の高齢化とともに、呼吸不全症例の増加が予想されます。入退院を繰り返す場合、自宅での生活環境を整備する上で、ソーシャルワーカーの重要性も高まっています。

07年度のHOT導入例の内訳は酸素濃縮器が18名、液体酸素が7名です。携帯酸素ボンベに比較し、液体酸素の子器は軽量で長時間の使用が可能であることがその理由に挙げられます。従来の子器の最大酸素流量は4Lまでで、労作時に5L以上の酸素流量を要する患者への適応ができませんでした。08年度には6Lまで可能な子器が適応可能となり、更なる使用拡大が予想されます。

気管支内視鏡検査は、気管支鏡13名中、TBLB3名でした。症例数が限られている原因として、肺癌患者の検査がほとんどないこと、び慢性肺疾患の場合、VATS（胸腔鏡下手術）を適応することが多いことなどが挙げられます。気管支鏡適応としては血痰、咯血の精査が目立ちます。

禁煙外来の実績としては、13名が受診し（全て保健適応患者でした）、8週間の治療を終了できた患者は4名でした。全症例、ニコチネルTTS（ニコチンパッチ）を処方しました。治療を完了できなかった9名の中では、仕事上・精神的なストレス状態、精神疾患の治療中で受診された場合が多く、治療の適応、開始時期の選択の難しさが浮き彫りとなりました。07年度には内服タイプの禁煙補助薬が適応可能となりますが、適応患者の選択には更なる検討が必要と考えます。

○睡眠時無呼吸症候群（睡眠呼吸障害）担当

2007年4月

北海道睡眠研究会にて発表。

「閉塞型睡眠時無呼吸症候群におけるメタボリック症候群合併について」

2007年6月

北海道新聞取材

「睡眠時無呼吸症候群と運転について」

2007年6月

ラジオ：FMノースウェーブ取材

「睡眠時無呼吸症候群について」

2007年7月

テレビ：HBCテレビ取材

「睡眠時無呼吸症候群と枕について」

2007年度に実施した睡眠ポリソムノグラフィー検査は136件で前年度より僅かに減少しています。CPAP治療の新規導入件数は、64件でしたが、他院から当院への転院による増加と当院から他院への転院および治療中止による減少があり、2007年度のCPAP治療の純増件数は45件です。紹介は、道内各医療機関および全国の睡眠時無呼吸症候群診療施設から頂いています。

○呼吸器内科週間スケジュール

火 17:30～ 新患カンファレンス（医師、看護師、理学療法士）

水 13:15～ リハビリカンファレンス（医師、看護師、理学療法士）

木 17:30～ 呼吸器画像カンファレンス（放射線科と合同）

文責 原田 尚雄
大久保敏彦